

二条中通信

第5号
二条中学校
H20.4.30
文責:直江秀樹

*【学校教育目標】学ぶ楽しさを実感し、夢を持ち夢を実現するために努力する生徒の育成

修学旅行は思い出いっぱい

3年生は、4月23日(水)～25日(金)の2泊3日で修学旅行を行ない、

「お 思い出になる き・今日という日を な・仲間とともに わ・笑い合おう」のスローガン通り、無事故で大成功させることができました。これは、13人の修学旅行委員会メンバーの結束力と3年生全員の協力があって可能となったことです。

1日目は、学校で結団式。集合時間は午前6:00です。早朝にもかかわらず、保護者・地域の方・教頭先生はじめ他学年の先生方多数が見送りに来ていただきました。修学旅行委員長I君の力強いアピールで、眠気も吹き飛び、修学旅行を成功させる気持ちが一つになりました。



学校からバスで伊丹空港に。

JAL2081便で8:55発。

空の旅は快適です。見る間に離れる地上。

結団式

心配なお天気ですが、雲の上はいつも青空です。11:45沖縄那覇空港に到着。雨が降ってきて、心配なままバス3台に乗り込みました。



平和公園に着いて集合

付けられるのです。昼食をとり資料館見学。

バスガイドさんの心のこもった歓迎の言葉に迎えられ、平和公園に移動しました。サトウキビ畑がつづく道をゆき、自然のすばらしい北基地が多い中部。鉄の爆撃を受け多大な犠牲者を出した南部。それぞれの地域の紹介をしながらバスは進みます。島民の4人に1人が尊い命を奪われた戦争。320以上もあるという慰霊碑・慰霊塔が、二度と愚かな戦争を繰り返してはならないと、生きている私たちに語りかけている。時折見せる青空は、二条中生徒に微笑みかけるよう。平和公園に到着。この平和公園には沖縄戦で亡くなったすべての人の名前が刻まれているそうです。丘の上から眺める海の景色はすばらしく平和そのものです。それだけに、亡くなった人の無念を思うと胸が締め



その後、ひめゆりの塔・潮平権現塚・県庁の壕へバスごとに移動しました。

1945年6月、沖縄はアメリカ軍の上陸により死傷者が増えるばかり。ひめゆり部隊は、がけや岩にある洞穴を仮の野戦病院とした陸軍病院に派遣された女学生たちです。アメリカ軍の激しい攻撃の前に突如出された「解散命令」は、彼女たちの「死」を意味しました。敗戦を迎え、この地を訪れた亡き娘の両親が1946年4月慰霊碑を建てました。そこに記された生徒たちの名前こそは、戦場で亡くなった生徒たちの生きた証(あかし)に他なりません。「かなしさのあまり 井戸までかけたけれど 水くみし子の 足跡もなく」途切れることのない参拝者。小さな壕の前で、二条中学の3年生は手を合わせ冥福を祈りました。また、各自然壕の中に入って、



楽しい宿舎レク

当時の様子を平和ボランティアの方から話を伺う貴重な体験をしました。

夕刻、宿舎に到着。食事の後は、修学旅行委員が企画・進行してくれたレクレーションや八重桜花太鼓のエイサー踊りを楽しみました。今回の旅行の目的である「仲間全員が楽しめる、お互いがわかり合える」ものをしていこうとの心意気がうれしかったです。予定時間をオーバーしましたが充実した時間でした。